

# ワークライフバランス



職業安定局 公共職業安定所運営企画室  
広報担当官

**村田 裕香** (平成11年入省)

## 子育ても仕事も楽しんで！

毎朝、子どもたちをなだめすかしながら、慌ただしく朝御飯や身支度を終え、パパ、小学校2年生のお姉ちゃん、3歳の妹、1歳の弟の家族5人で出発です。下の子たちは、自分であんよしたい日もあれば、ベビーカーに乗りたいたい日もあり、お姉ちゃんは、下の子の気分に合わせて、手を繋いでくれたり、ベビーカーを押してくれたりしてくれます。途中、小学校に向かうお姉ちゃんとは「今日も保育園

園集合ね」と、皆でハイタッチしてお別れします。ダンゴ虫やたんぼぼを愛でながらの登園時間が、家族皆で過ごす一番楽しい時間です。

1時間の勤務時間短縮制度を利用しているので、時間内に仕事を捌けるよう、職場までの電車の中で、その日やるべき仕事を、頭の中でリストアップします。始業から終業までは、あっという間です。同僚と引き継ぎをすませ、帰りの電車の中では、今日終えた仕事の反省会と明日以降やるべき仕事のリストアップ。仕事のことで頭が飽和状態のまま、保育園まで走ります。

保育園前で手をふるお姉ちゃんが見えてきて、園に着いたらハイタッチ。妹、弟が「ママ～」とジャンプしながら興奮ぎみに抱きついてくると、頭の中はすっかり空っぽになります。子どもたちとの触れ合いが、私の仕事のオン・オフのスイッチです。

家に着くと、空腹と眠気でご機嫌斜めになった子どもたちに、嵐のように慌ただしく、ご飯を食べさせ、お風呂に入れ、眠りに就かせると、これまた一転、天使のようです。

子育ては大変ですが、子どもがいることで、24時間や1年…それぞれの時間が、本当に短く感じられ、仕事においても、時間を意識するようになりました。ぜひ、皆さんも仕事も子育ても楽しんでいただけたらと思います。



職業安定局 首席職業指導官室  
職業紹介係長

**日高 幸哉** (平成18年入省)

## 子どもを介して世界を広げる

私は、毎日、もうすぐ2歳になる息子を保育園に送り届けてから出勤しています。

2歳ともなれば、いわゆるイヤイヤ期という、その名の通り何でも「イヤ」という2文字で片付けられてしまう日々を迎えているわけですが、段々と会話が成立してくるのも実感できるので、それだけで楽しいものです。

我が家は夫婦共働きなので、仕事と育児の

関係で最もよく起きるのは、子どもの急な発熱などの際、どっちが休むか？という問題です。

なかなか難しい問題ですが、例えば、丸一日休むことにお互い支障があれば、午前と午後で交代するという工夫もしています。一日中子どもと家で二人きりだと、それはそれで仕事以上に疲れるので、意外にも良い作戦なのです。もちろん、職場の上司、同僚、部下などの理解があってこそこの話なので、感謝の気持ちとともに、仕事でしっかり返していくことを常日頃から意識することが必要だと思っています。

子どもを持つことになるかどうかは人それぞれであり、育児の在り方も家庭によって様々で良いわけですが、子どもを持ったならば、男性も育児に参加することをお勧めします。育児に参加することで、それまでの生活では接することのなかった人たちと交流を持つことができるので、新たな価値観に触れたり、視野が広がったりします。

厚生労働省の仕事を遂行する上では、常に「人」を見つめる必要がありますが、子どもを介して自らの世界が広がっていくことで、とても貴重なものがもたらされていると感じます。

多少苦労はありますが、職業人としてよりよい仕事ができるように、また、子どもに愛想を尽かされないように、仕事にも育児にも取り組んでいきたいです。

# 研修制度



職業安定局 派遣・有期労働対策部  
民間人材サービス推進室

**赤羽 幸治郎** (平成 25 年入省)

## 労働局研修について

私は、大阪労働局及びハローワーク大阪西で研修を受けました。

私の研修先である大阪は、熱意ある取組みをたくさんしている、と先輩から聞いており、実際に労働局での1か月の研修期間だけでも、障害者の雇用に関係した企業実習受け入れ依頼、障害者雇用が十分でない企業への局からの指導といった取組みに立ち会うことができました。厚生労働省本省で立案された制度や施策を、各都道府県の現状に合わせ、労働局がリーダーシップをとって各ハローワークに指示し、実行に移していく様子を見ることができたことは、貴重でした。今は本省で、労働局のあの方だったら、この制度をどう運用するだろう、と思い浮かべながら、制度の企画・立案をするのにやりがいを感じています。

## ハローワーク研修について

私は、北海道労働局とハローワーク札幌で半年間研修を受けました。ハローワークでの5か月の研修のうち3か月は、職業相談窓口で来所される求職者の方に職業相談と職業紹介を行っていました。来所される方の年齢や背景は様々ですが、真剣に仕事を探しているということは皆さん共通です。そうした方々に向き合い、求人者に労働条件の緩和を掛け合ったり、スキルの欠ける求職者については、別の長所を売り込んだり・・・自分なりに創意工夫を凝らして1件1件職業相談・職業紹介を行う中で、本省の作った制度は、窓口の職員の方の1つ1つの丁寧な運用で活かされているのだなという実感を持つことができました。



職業安定局  
公共職業安定所運営企画室

**武内 俊也** (平成 25 年入省)

## 全体を通じて

私は、半年間福岡労働局とハローワーク福岡中央で地方研修を受けました。研修の中で、一番心に残ったのは、自分の業務で忙しいはずの職員の皆さんが、研修で行った1年目の自分に、本省からの指示を現場でどのように運用するのか、一から丁寧に指導くださったことです。こうした職員の皆さんのおかげで不安なく研修期間を過ごせただけでなく、霞ヶ関に戻って施策の企画・立案に携わる自分への期待とともに、責任の重さも感じました。

今後は、この研修で築いた関係を大切に、常に現場を意識しながら仕事をしていきたいと思っています。



職業安定局 総務課

**浦上 晴香** (平成 25 年入省)

## 人間科学職の研修について

入省1年目では以下のような研修が実施されています。

### 4月～5月：厚生労働省内研修

約1ヶ月間は厚生労働省内での研修があります。厚生労働省の職員として働く上で必要になる基本的な教養や知識を学びます。グループディスカッションやディベートなどの実践的な研修もあります。また、座学のみならず、ハローワークなどの施設の見学にも行きます。

### 5月～7月：人事院の初任行政研修

5月～7月の間に5週間、人事院主催の全省庁合同の研修があります。1週ごとに異なるメンバーで班を構成し、それぞれの班の構成員である様々な省庁の同期とディスカッションをしたり、介護施設などで実際の仕事の体験や施設の方との意見交換を行ったりします。ここで得た知見や経験、他省の同期との交流は、行政官として働く上で大きな糧になります。

### 5月～7月：人間科学職研修

人事院の初任行政研修終了後、厚生労働省内で人間科学職だけの研修が数日間あります。人間科学職の先輩方から、人間科学職としての心構えやこれまでの経験などをお話いただき、人間科学職の仕事やその役割への理解を深めます。

### 10月～3月末：地方研修

10月から翌年の3月末までの半年間は地方の労働局やハローワークで研修を受けます。実際に職業安定行政の最前線である現場で働き、職業相談、職業紹介や事業主への指導・助言などを通して、雇用保険制度や職業紹介事業など職業安定行政施策の運用を、具体的に学ぶことができる貴重な機会です。また、労働局やハローワークの職員との繋がりを作ることができる機会でもあります。

■1年目の研修以外にも、3年目研修や係長研修、さらに、職業安定行政の動き等について学ぶ人間科学職の勉強会など、その時々に応じて必要な知識をつけるための研修が実施されています。